

「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

74

ぐに元気でいる

仮設にてアル中に人亡
くなりぬ如何なる人も
逝けば悲しも

返歌

仮設にて暮らす日々にも
悲喜のあり送る人あり
出会う人ある

新沼志保子

「仮設はね貧乏人の品
評会」とふ媪の心情わ
が胸を衝く

風の如き音たて梁を軋
ませて地震の不気味さ
警報鳴る夜半

返歌

警報の不気味さ響き揺
れが来る夜半の仮設媪
とかたる

芭蕉の奥の細道の

「月日は百代の過客に
して、行きかふ年もま
た旅人なり」と人生の
無常の中に、「風雅の
まこと」を求めて旅を
した芭蕉の世界が浮か
んできます。さらに、
蕪村の「五月雨や大河
を前に家二軒」という
水かさが増してきて洪
水の恐れと対峙してい
る世界も浮かんでいま
す。

2月19日(火曜日)の
第5面に「投稿 先人
の知恵に学ぶ津波対策
⑤ 一関市 名村栄
治」が掲載されてお
り、(高台移転と構造
重視の防波堤)、藩政
時代の土木技術(関東流
と紀州流)、(各港湾の
実情に見合った防波
堤)が掲載されてい
る。

名村栄治氏の津波対
策は、高台移転を第一
義とし、防波堤建設は
補助的、第二義的に考
えるべきとする意見に
は肯くものが多々あ
る。

宇宙と地球の運行、
地殻運動、生命の発生
と、文化の発生、理と
情を歴史のフィルター
を通して学び、現代に
活かそうという考えは
胸に響いて来るものが
ある。ここに、芭蕉の
句とセザンヌの絵が結
びつくものがあるので
はないかと思ってい
る。

歴史は理と情をつな
げ、経験のなから知
恵を生みだす人間社会
の基本財産である。こ
こに、「芭蕉の句とセ
ザンヌの絵はつなが
る?」のかもしれない。

芭蕉の俳句とセザンヌの絵はつながるか? (2)

芭蕉の3句

古池や 蛙(かはづ)
飛びこむ 水のおと

閑(しづか)さや 岩
にしみ入る 蝉の聲

荒海や佐渡によこたふ
天河(あまのかは)

「この3句の奥には
セザンヌの円錐、円
柱、球体の三つに代表
される造形理論とつう
じあうものがある?」
WHOジュネーブ本部
に勤務していたころに
いろいろな国を代表し
て働いているスタッフ
との夕方5時以後の勤
務の終わった後の自由
なデスカッションを楽し
んだ時の話である。

その時の話では「古
池」と「蛙」と「水の

音」の三つが一つにな
る「妙」が、「閑」と「岩
」と「蝉の聲」との「妙」
と「荒海」と「佐渡」と「天
河」との「妙」、これら

の「妙」はそれぞれに
べつの「もの」につな
がる動きをそなえてい
るという話であった。

なんともわかったよ
うで、わからない、話
であった。しかも、こ
れは、セザンヌの円
錐、円柱、球体の三つ
に代表される造形理論
と通じているとの話で
あった。

あれから、20年も過
ぎた今になって、芭蕉
の5・7・5が生み出
す「妙」の世界とセザ
ンヌの造詣論がふしぎ
にも心に響いて来るの
である。

(仮設住宅) 4首

岩淵 綾子

総理夫人宮田仮設を見
舞いにく優しき「は

(歴史から学ぶ)